

みんなのひろば



▶▶伝統楽器『琴』の演奏に挑戦した「一人一芸チャレンジ教室」。琴にふれるのは初めてでしたが、ボランティアの先生が丁寧に指導してくれました。
11月13日(土)／北秋津小学校
(撮影：市民カメラマン・津田資雄)



▶ミュージックで盛大に行われた「市制施行60周年記念式典」。第2部では狭山ヶ丘中学校合唱部、三ヶ島中学校合唱部、JULIETS、トコロんが未来へ向けて歌声を響かせました。11月6日(土)／ミュージック大ホール
(撮影：市民カメラマン・中村 仁)



▶木々の葉が色づき始めた秋の所沢。「川と緑のふれあいウォーク」では、約2,300人が二つのコースに分かれ、狭山丘陵の豊かな自然の中を歩きました。11月14日(日)／北野公園～西武園ゆうえんち
(撮影：市民カメラマン・木村清貴)



▶▶台風の影響であいにくのお天気となりましたが、「第31回所沢市民フェスティバル」が2日間にわたり開催されました。今年は何と所沢航空記念公園に恐竜が出現。子どもたちもビックリ！
10月30日(土)・31日(日)／所沢航空記念公園等
(撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎▶伊藤磨紀子)



目指せ 低炭素化! 温暖化をとめよう

12月は地球温暖化防止月間!

今から250年ほど前の産業革命がおこるころ、世界の人口は約8億人でしたが、現在は69億もの人が地球上に暮らし、多くのエネルギーを消費しています。また、大気中の二酸化炭素濃度は、そのころ約280ppmだったものが、現在は380ppmを超えています。そのため、大気の温室効果が高まり温暖化が進んでいます。

◆呼吸も温暖化の原因?

私たちは呼吸により、酸素を取り込み、その酸素によって食物の栄養素を分解してエネルギーを得た上で、二酸化炭素を吐き出しています。私たちが食べるその食物が、たとえば魚や動物の肉であっても、元をたどれば、植物が光合成によって大気中の二酸化炭素を吸収して作り出したものです。このように、呼吸で排出される二酸化炭素は、自然界の炭素循環の中でつりがまがとれています。

大気中の二酸化炭素の急激な増加は、私たちの呼吸の影響ではなく、石油や石炭・天然ガスなどの化石燃料を大量に利用することが原因となっています。

◆ストップ温暖化は間に合う?

私たちが、家庭から排出している二酸化炭素を用途別でみると、家電製品・照明(32.7%)、自動車(30.3%)、お風呂などの給湯(13.6%)、暖房(12.3%)、冷房(2.0%)となります。私たちの暮らし方を急に変えることは難しいので、家庭でできる効果的な温暖化対策としては、家電製品・照明や自動車など家庭で多くのエネルギーを消費しているものを買い替えるときには省エネ製品にし、無駄な使い方を控えることが大切です。

大気中の二酸化炭素の濃度が元に戻るには長い年月がかかるため、温暖化や気候変動を一気に止めることはできませんが、私たちが温暖化問題に真剣に取り組むことで、二酸化炭素の排出を抑え、温暖化の影響に備えることができます。

所沢市はチャレンジ25キャンペーンに参加しています
問い合わせ 環境総務課 2998-9133 2998-9394



はっらっ 野老っ子



キンコンカーン♪と合格の鐘が鳴り響く、日曜お昼におなじみの長寿番組といえば、言わずと知れた「NHKのご自慢」。10月24日(日)の所沢からの生放送はご覧いただけましたか? 出場者の皆さんにくぎづけとなり、その歌声とパフォーマンスを楽しんだ方も多いと思います。今回はそうした個性豊かな20組の出場者のなかでも、94歳とは思えない力強い歌声を響かせ、ひととき皆に元氣と勇気を与えた、特別賞受賞者、木暮志づ代さんをご紹介します。

大正4年、浅草生まれの木暮さんは現在、所沢の高齢者福祉施設で生活をしています。その施設では月に2回、カラオケの時間があり、木暮さんはその時間をとても楽しみにしています。「5年前にこの施設に来てからカラオケというものを知りました。まだまだ慣れないところもありますが、部屋でテープで歌うより、みんなの前でマイクを持って歌うのは格別に楽しいです」と、ふだんカラオケを誰よりも楽しんでいる木暮さんは、所沢でのど自慢が開催されることを聞き、迷わず応募を決めました。

木暮さんがステージで披露することを決めた曲。それは、氷川きよ

人生で一番幸せなひととき

木暮 志づ代(松郷在住)

しさんの「三味線旅がらす」です。「きよさんの歌が大好きで、その高い声が、私の声質に合っているかなと思い歌わせていただきました。三味線の音が入っているところが新鮮で、それに今一番売り出し中の新曲なので選びました」と94歳にして時代の流れもすっかりつかんでいます。「本番は、間違えないようにと思い、とても緊張しました。不安もありましたが、2日間つきっきりでお世話をしてくれた施設の職員の方々のおかげで、何とか舞台上で歌うことができました。他にも応援してくれた方たち、ステージ上でお世話してくれた出場者の皆さんに感謝、感謝の気持ちでいっぱいです。94年間で一番幸せなひとときでした。」と本当にうれしそうに話してくれました。

「これからも元気に歌っていきたい」と笑顔で語る木暮さんは、12月に95歳を迎えます。明るく、常に笑顔で、周囲に対する感謝の気持ちを持ち続ける姿勢が印象的な木暮さん。歌うことのほかに元気に長生きする秘訣がいろいろとありそうです。



▶皆に見守られ熱唱する木暮さん

ところざわ 歴史まめ知識

所沢市域にかかわる歴史的事項を50音順に紹介しています。今号は「く」です。



熊野神社 西新井町にある古社。文明17年(1485)の板碑(阿彌陀三尊来迎の図が描かれた板碑)が残されるなど、創建は室町時代にさかのぼります。毎年12月に、蛇を模した糺蛇を鳥居に飾る若注連神事が行われます。由来は、鳥居近くの大木に住むという白蛇の姿を見た者が病にかかったため、鳥居に蛇をまつり封じ込めたことから始まったとされます。かつては大晦日の晩に氏子の人たちが行っていました。現在は12月中旬の日曜日に飾り付けを行っています。



▶熊野神社の若注連神事

栗原茂景 幕末から明治にかけての歌人。大宮の氷川神社の社家に生まれ、のちに北野天神社の宮司となりました。諱を茂景といいましたが、安政5年(1858)徳川家茂が将軍に就任すると、「茂」を避けて「成景」と改め、のちに茂景に戻っています。境内の一角に「神さぶるこのみやしほはむさし野のひろきしまに幾代へぬらむ」(厳かなこの宮は武蔵野の静寂の中で悠久の時を経っているでしょう)と刻まれた小さな歌碑が建てられています。

クレイ射撃場 昭和39年(1964)、東京オリンピック開催に合わせて、南永井に建設された県営の競技場。会場に選ばれた最大の理由は、ライフル競技場となった朝霞市に近かったためです。オリンピック後は、アジア大会(昭和42年)、埼玉国体(同年)の競技会場となりました。昭和46年、開通した関越自動車道に流れ弾が飛んだことをきっかけに廃止の声が上がり、翌47年閉鎖されました。その後、跡地に県立所沢東高校が開校し、現在は県立おおぞら特別支援学校となっています。

問い合わせ 生涯学習推進センターふるさと研究 2991-0308 2991-0309

誰でも エッセイ

テーマ「カラオケ」

カラオケに出会ったのは定年後。それまでの45年間は、家族のために遊ばずまわく働きました。定年後、さて何をするかとまどい、農作業をしたり、アルバイトもしましたが、空虚な毎日でした。そんなとき友人にカラオケに誘われ、こんなに楽しいことがあるのかと、その魅力にどっぷりハマりました。会社勤めの日々とは180度違い、年金をいいただき病気を癒やされ、こんなよい世の中はないと思えるようになりました。最近ではデュエットにはまり、バッチリ上手に歌えたときは、とても良い気分になります。



聞かせたい歌

「すぐきな声だね」と、声だけは褒められることが多く、親に感謝しています。

山口 根岸 新
カラオケは苦手…。自分の下手な歌なんか聞いてもらうのもちょっと楽しくないし恥ずかしい。飲み会などの集まりには欠かさず参加する私だが、カラオケとなるとそそく帰る準備。しかし、そんな私がこのところ連日カラオケに通っている。一人で歌えば、むしろ気持ちがよいものでもない。このころ変なんだ。「歌を歌うって楽しい!」そう思っている自分がいる。自然と気持ちが入る。詩の意味やメロディーが染み渡る。まるでアーティスト気分が私に、あいつに届けたい思いで一生懸命歌う。下手でもいい。きつと思いは伝わるよね?

もう時期。20年来の親友の結婚式だ。全てが終わったら誘ってみよう!「カラオケ行かない?」

